



インターネットでの情報提供	
提供予定日	2月23日

平成23年2月22日 県政記者クラブ配布			
関係部課、企業及びNPO	担 当	担 当 者	電 話 番 号
商工労働部商工政策課	新産業・新エネルギー担当	三輪康典	直通058-272-8354
JX日鉱日石エネルギー株式会社	エネルギーシステム開発部 システム開発1グループマネージャー	小林 拓	03-6275-5222
特定非営利活動法人 こうじびら山の家	副代表理事	河合美世子	0575-87-3039

## 岐阜県次世代エネルギーインフラ「中山間地モデル」を公開します

～全国初 「太陽光発電、燃料電池、蓄電池」に「小水力発電」を融合させた自給自足型システムを構築～

県では、今後最も成長が期待されるエネルギー・環境分野における新たな産業創出を目指し、複数のエネルギー資源や新たなエネルギー技術の組み合わせによる「次世代エネルギーインフラ」のモデル構築と効果の実証に取り組んでいます。

このたび、中山間地における次世代エネルギーインフラのあり方を示す「中山間地モデル」として、郡上市明宝地内の古民家において「太陽光発電、燃料電池、蓄電池」と、中山間地の河川を生かした「小水力発電」等を融合させたシステムが完成し、来る3月6日（日）に公開の運びとなりましたので、お知らせします。このようなシステムは全国初となります。

なお、この事業は、岐阜県が「チャレンジ25地域づくり事業」（環境省）の採択を受けて実施しているものです。

### 記

#### 1 「中山間地モデル」の概要（資料1参照）

##### (1) 設置場所（郡上市明宝地内「古民家」）について

築100余年といわれる、集落のシンボリックな建物。  
住宅として使用される他、地域づくり、都市と農山村との交流などに取組む地域住民団体の活動拠点としても、活用されている。



##### (2) システムの特徴

- 複数のエネルギー資源や新しい技術を組み合わせる「ベストミックス」という考え方のもと、「太陽光発電」と「燃料電池」によって電気と熱を供給し、余った電気は「蓄電池」で安定化させ、夜間の生活に利用するとともに「農業用電気柵」（獣害対策）へも供給する。
- 中山間地に豊富に存在する河川や木材資源に着目し、「小水力発電」「木質(薪)ストーブ」を付加することで、独立性の高い「自給自足型エネルギー供給システム」を構築した。

##### (3) システムの概要

- 太陽光発電<遊休農地に設置> (4.2kW)
- 燃料電池<LPG使用> (SOFC/実証機、0.7kW)
- 小水力発電<上掛け水車式> (0.5kW)
- 蓄電池<家庭用リチウムイオン電池> (9.7kWh)
- 充放電制御システム (1式)
- システム表示モニター (1式)
- 木質(薪)ストーブ (11,000kcal/h)



<小水力発電>



<太陽光発電>



<燃料電池>



<木質（薪）ストーブ>

#### (4) 施設の見学について

- この古民家は個人所有で、住宅として使用されていることから、常時の公開・視察の受入れは行なっていない。今後は、予め日時を定めての公開・視察の受入れを予定。
- 次回は、3月25日（金）午後2時～（予定）としており、以降の予定は随時、岐阜県HPにてお知らせする。

[「岐阜県HPの新エネルギー・新産業トップページ」](http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/kigyo-ritchi-shien/chusho-kigyo-shien/shinene-shinsangyo/)

(<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/kigyo-ritchi-shien/chusho-kigyo-shien/shinene-shinsangyo/>)

- 見学・視察に関するお問い合わせは、岐阜県商工政策課（直通 058-272-8354）まで。

#### (5) 今後の取り組み

- 平成23年度以降も継続して実際に居住しての実証実験を行い、エネルギー効率、費用対効果、CO2排出抑制効果等を実証、データを公開する。
- 岐阜県には、多くの災害時孤立予想集落があることから「自給自足型エネルギー供給システム」の有効性を実証し、今後の防災対策、新産業振興等の可能性等について検討していく。

## 2 公開式について

(1)日時 平成23年3月6日（日）13:30～14:30

(2)会場 郡上市明宝地内 古民家

※郡上市役所明宝振興事務所より徒歩3分です。

※会場周辺には駐車場がありませんので、当日は郡上市明宝振興事務所の駐車場に駐車をお願いします。現地にご案内します。

※郡上市明宝振興事務所（郡上市明宝二間手606-1）

#### (3)出席者等

<主催者> ※県及び共同事業者

・岐阜県 商工労働部長 えさきよしひで 江崎禎英

・JX日鉱日石エネルギー株式会社 エネルギーシステム開発部長 どひひでゆき 土肥英幸

・特定非営利活動法人 こうじびら山の家 代表理事 きたむらあまね 北村周

<来賓>（予定）

・郡上市長

・地元県議会議員

・地元自治会、地元住民団体（ふるさと栃尾里山倶楽部） 等

#### (4)内容

・主催者、来賓あいさつ

・テープカット（天候により屋内での点灯式等に変更することがあります）

・アトラクション（「明宝磨墨太鼓」の演奏披露）

#### (5)その他

一般の方も参加可能です。

### 3 「次世代エネルギーインフラ」普及に向けた取組みについて（資料2参照）

岐阜県では、平成21年度より、太陽光発電や燃料電池、電気自動車など、複数のエネルギー資源や新たなエネルギー技術の組み合わせによる「次世代エネルギーインフラ」の普及に向けた「5つのモデル」（①公共施設モデル、②商業施設モデル、③家庭モデル、④中山間地モデル、⑤都市モデル）の構築に取り組んできた。

これまでに、平成22年5月に県営都市公園「花フェスタ記念公園」（公共施設モデル）を、同年6月に東海北陸自動車道ひるがのスマートICに隣接する「クックラひるがの」（商業施設モデル）を一般公開した。これら2つは「次世代エネルギーパーク」の認定を受けている。同年11月には岐阜市内に次世代新エネ・省エネモデルハウス「GREENY（グリーンイー）岐阜」（家庭モデル）を設置し、一般公開するとともに、体験宿泊を公募し、実際に居住しての実証実験を行なっている。



花フェスタ記念公園  
＜バラと太陽光発電＞



クックラひるがの  
＜燃料電池による足湯＞



GREENY岐阜  
＜全景と電気自動車＞

※「次世代エネルギーパーク」について

資源エネルギー庁は、新エネルギーをはじめとした次世代のエネルギーについて、実際に国民が見て触れる機会を増やすことを通じ、国民の理解を深めるため、太陽光等の次世代エネルギー設備や体験施設等を整備した「次世代エネルギーパーク」を推進。

地方自治体等を対象に、計画を公募・認定・公表し、PR等を行っており、平成23年2月1日現在、全国で25件を認定している。

### 4 「チャレンジ25地域づくり事業」（環境省）について

2020年までに1990年比で地域の二酸化炭素排出量を25%削減するために効果的な対策を集中的に実施し、他の地域へ普及させていくための実証事業。

提案公募により選定された全国6自治体（北海道帯広市、群馬県桐生市、岐阜県、岐阜県中津川市、京都府、大阪府）への委託事業として実施。

なお、事業は、自治体と企業・地域のNPO等とが共同で実施することとされており、今回は「JX日鉱日石エネルギー株式会社」（新エネルギー関連設備の設置を担当）、「特定非営利活動法人こうじびら山の家」（木質ストーブの設置と里山からの木質燃料の調達等を担当）が共同実施者として参画。

#### 【参考】

「中山間地モデル」の趣旨に賛同した県内の企業・事業所から、古民家を活動拠点としている地域住民団体に対し、以下の備品等が寄贈され、一体的に運用されています。

○屋内用LED蛍光灯 1式（東神電気株式会社）

○屋外用LED街路灯 2基（大和ハウス工業株式会社 岐阜支店）